
中年男とチョコレート戦争。

乃普介

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

中年男とチョコレート戦争。

【ZPDF】

Z7601X

【作者名】

乃普介

【あらすじ】

とある真夏の日の出来事。中年男はチョコレートをかけ、なにかと戦争するようです。

暑い夏の昼間。一人の男が冷蔵庫の前で俯いていた。その顔に浮かんでいるのはまさに絶望を見た男だけが浮かべる顔。

早い話、チョコレートのストックが切れたのである。男はチョコレートが大好きだったのだ。

男は焦つた。これから大事な仕事があるのである。男はいつも仕事を前にチョコを食べないと発作が起こり最悪死に至る、と思いつていたのだ。

しかし、何度も確認してもチョコは無い。やうなれば男に残された行動は一つしかなかつた。

男はまず前を向いた。俯いている場合では無い、これは戦争だ。そう、ストックをしつかり確認しなかつた弱い自分との戦争なのだと思い立つたのである。

男は財布を手にとり、その中に100円玉が入っているのを確認して外に用意してある愛自転車にさつそつと乗り込む。その顔つきはさつきまでの俯いていた男のものでは無かつた。まさしく武者、侍のそれであった。

自転車のペダルをこぎながら考えた。

まず、どこへ向かうかだ。男はいつもチョコレートを買つのに近所のコンビニエンスストア、Kを利用していた。

今回もそのコンビニを利用したいところなのだが、そこは一つの事情から行く事が出来ない。

そこのコンビニにはいとしの夏子（38）ちゃんが働いているのだ。

もしこんな時間にコンビニに行つて二ードだとでも思われたら、立ち直れない。チョコレートを買いに行くのだから尚更である。

しかしそれならどうに向かうのか。選択肢は一つ、近所の駄菓子

屋、スーパー、友人の家、である。

男はそれぞれ場所を考えた。ここからの近さでいつと駄菓子屋く
スーパーく友人の家、である。

手に入るなら早い方がいい、そう考えた男はすぐさま近所の駄菓
子屋へハンドルをきつた。

これから襲い来る困難を知らずに、である。

駄菓子屋、三唱本舗までは自転車でおよそ一〇分。たいした距離
ではなかつた。

しかし今は真夏の真夏。気温38度はゆうに越えていいるかのよう
な猛暑の日である。男の体力の消耗は激しかつた。

男は汗をたらしながらこぎつづけた。そしてついに見つけた。駄
菓子屋を。

小さな木製の古めかしい家屋、消えかかつた三唱本舗の看板。そ
して、たくさんの、子供達……。

男は、その子供達を見た瞬間まさしく勝利だと思って戦つたら相
手が孔明だった時のような、殺さないでやると言われて安心してい
たら心変わりされたようなそんな顔をした。

普段、たとえばコンビニに子供達が居てもとくになにも気は使わ
ない。しかしそこは駄菓子屋である。まさしく子供達の城。なにを
されるかわからない。

しかも今の自分は陽炎がのぼるような道を走つてきたため汗でど
ろどろだ。こんな姿で入つて行つたら子供達にすぐ敵視されても可
笑しくない。

男は迷つた。念願のチョコレートはすぐそこである。しかし、い
ま無謀ともとれる攻撃をするのは得策なのか……。

子供達が不審がつてこちらを見た。その手には拳銃……。しかも
それはどうやら駄菓子屋で普通に売つているようである。男は丸腰、
襲われたらまず命は無い。

男は悩んだ。悩んだが、万全をきしてスーパーへ向かつた。あそ

こはすでに完全に子供たちの手の中、拳銃を流していくところからも一目瞭然である。そんなところへ行つたところでチヨコレートを売つてくれない危険性があつたのだ。

もうそろそろ3時と言つたところか。男はペダルをこぎ続けていた。途中自動販売機で水分補給し、体力の回復を図つたが、しかしそれでも男は消耗しきつていた。

スーパーまであと少し……しかし、そこで男は一つの異変に気がついた。

居ないのである。中学生達が。今は3時、ここには中学生達の通学路。いつもならこの時間帰宅途中の中学生達が居るはずだ。しかし、居ない。なにかの陰謀か?と男は考えた。自分を会社へ行かせないライバル社の策略かと考えたのである。

おとこは念のため、裏ルートを使うことにした。大通りを使わないのではない。歩道を使わない、そう車道を走るのである。

通常自転車は車道の左側を走るのがルールである。つまり法的な問題は一切無い。

ここなら裏道からの中学生達の奇襲を避けることができる。まさしく完璧な作戦であつた。

しかし、一点男は気がついていないことがあるのだが、みんなさんは気がついても言わないであげてほしい。

もちろん、面白いからである。

男はスーパーについた。スーパーの中はまさに天国である。熱く沸騰しそうな体を冷やしてくれる。

スーパーを利用する奥様方はいきなり現れた汗だくの男に怪訝な視線を浴びせたが、男はそれどころでは無かった。

男はすぐにお菓子売り場へ向かう。子供たちや奥様の視線をよそにすぐさま板チョコを手に入れた。

その美味しそうな香りに足が止まりそうになつたが、そこで満足

していてはいけない。

すぐに男はレジへと向かつた。幸運にもレジは空いている。男には幸運だった。幸運すぎた。この幸運がこのあとの悲劇を生み出したのかもしれない。男は考えたが、全く関係無いだろう。レジの人には「チヨコ」を出す前に男は財布の取り出し、100円玉を出そうとした。

しかしその瞬間男の頭をいまだかつて走つたことの無いほどの電流が走つた。まさに雷である。

100円玉がないのだ。当然である。さつき自動販売機で水分補給したのだから。

しかし、男はそのことに気づかない。周りを見渡す。そこに見える奥様が、子供たちが、レジの人々がみんな敵に見える。

男は「チヨコ」コレートを放り投げ、逃げ出した。ここに居てはいけない、本能がそう告げたのだ。

すぐに自転車に乗り込み次の場所へ向かつた。ここでなければもう駄目である。友達の家はもうすぐそこであった。

友人はスーパーのすぐ近くのアパートに住んでいた。一緒に会社に勤務しており、昔から仲がよかつた。

男は階段を駆け上がりドアを叩く。友人はすぐに出てきた。しかし友人はすぐに驚いて後ずさりした。

「お、おいお前……」

男の服は汗でべトベトで、もうすでに男の顔には最初の武者の面影は全く無い。不安に怯えきつた顔だ。

「チヨコを……チヨココレートをくれ……」

「は、はあー?チヨコがどうしたんだよー!とりあえず水、水とつてくるから」

「チヨコだ!チヨコをさつさとよこせー!」

友人には全く状況が理解できなかつた。友人は男がチヨコ好きなのは知つていたがなぜそこまでチヨコに必死になつてゐるのか。

友人はなにか恐ろしくなつて冷蔵庫に入つていたチョココレートを持つてきて渡した。

「ほ、ほらチョコ。どうしたんだお前？顔色悪いぞ……」

しかし声をかける友人に男は感謝の言葉も無くすぐにチョコを握り締め、自転車に乗り込む。

「お、おい！一体どうしたんだよ！」

友人が追いかけた時にはもうすでに男の姿は無かつた。

男は家に帰つてきた。もうすでに体力は限界である。汗はただただ流れ続け、はやく水分を補給しなければ倒れてしまいそうであった。

しかし、男はすでにチョコレートのことしか頭に無かつた。男は友人の家から帰つてくるまで、チョコを懐にいれ、必死に守つてきただのだ。

迫り来る自動車の群れ、中学生たちの恐怖、子供達からの視線……すべてを乗り越えついに手に入れたチョコレート。

しかし、懐からチョコレートを取り出した男は地獄を見ることとなつた。

あんなに暑い中、長い間しかも懐に入れていたのである。チョコレートはぐちょぐちょに溶けていた。

男は絶望の絶叫をあげ、気絶した。暑い日のチョコレートの管理はみんなも気をつけるようにしよう。

翌日の朝刊にとある記事が載つた。なんでも男が脱水症状で倒れたそうな。

その男は玄関で溶けたチョコレートを握りながら気絶しているところを発見されたらしい。

病院で目が覚めた男は「チョコを食べないから倒れたんだ！それに仕事が！仕事が！」とバカなことを言つていたらしいがそもそもその日は日曜日であり会社は休みであった。中学生が居なかつたり

会社の同僚が自宅に居た時点で気がつくべきであった。
全く、最初から最後までなにと戦っているのか、よくわからない
男だ。という話であった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7601x/>

中年男とチョコレート戦争。

2011年10月22日03時18分発行